

Survival rate and factors associated with 1-month survival of witnessed out-of-hospital cardiac arrest of cardiac origin with ventricular fibrillation and pulseless ventricular tachycardia: The Utstein Osaka project

目撃のある心原性かつ心室細動・無脈性心室頻拍症例の予後とその関連因子について
～ウツタイン大阪プロジェクトより～

Resuscitation 2008; 78: 307—313 DOI information10.1016/j.resuscitation.2008.04.001
西内辰也 (大阪市立大学救急生体管理医学)

〈背景〉

院外心停止の予後はいまだに不良であるが、目撃のある心原性かつ心室細動・無脈性心室頻拍症例は良好な予後が期待できる。1998年5月1日からの一年間におけるそれらの一ヶ月生存は11%であったが、電気ショックの包括的指示下による実施、メディカルコントロール体制の構築などにより、予後改善が予測される。

本研究では、目撃のある心原性かつ心室細動・無脈性心室頻拍症例の予後について調査し、それらの予後に関連する因子について検討した。

〈結果〉

対象地域：大阪府

対象期間：1998年5月1日から2004年4月30日（6年間）

対象患者：18歳以上で一般市民に目撃された心原性かつ心室細動・無脈性心室頻拍症例。

主要評価項目：一ヶ月後の生存の有無

〈結果〉

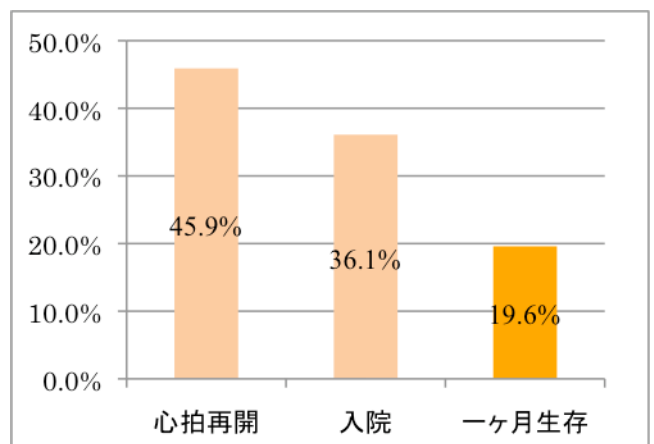
1. 対象患者とその予後

期間中に登録された全院外心停止例は29,927で、対象患者は1,028例であった。一ヶ月生存は202例（19.6%）であった（右図）。

2. 予後に関連する因子について

Stepwise logistic regression を用いて検討した結果、

- ① 年齢
- ② 性別
- ③ 目撃者の種別



- ④ 覚知から救急隊による蘇生開始までの時間
- ⑤ 覚知から救急隊による電気ショックまでの時間
- ⑥ 救急隊による蘇生開始から病院到着までの時間

が予後に関連する因子と考えられた（下表）。

Area under the ROC curve は 0.74 であった。

変数		オッズ比(95% CI)
年齢	18-79	reference
	80-	0.4 (0.21 to 0.74)
性別	男性	0.49 (0.33- to 0.72)
目撃者の種別	家族	0.76 (0.54 to 1.07)
覚知から救急隊による蘇生開始までの時間(分)	0-4	reference
	5-7	0.53 (0.32 to 0.87)
	8-10	0.53 (0.30 to 0.95)
	11-	0.35 (0.13 to 0.94)
覚知から救急隊による電気ショックまでの時間(分)	0-5	reference
	6-9	0.32 (0.12 to 0.91)
	10-13	0.26 (0.09 to 0.72)
	14-17	0.14 (0.05 to 0.45)
	18-	0.06 (0.02 to 0.17)
救急隊による蘇生開始から病院到着までの時間	0-9	reference
	10-19	0.59 (0.36 to 0.96)
	20-	0.36 (0.21 to 0.62)

<結論>

1998年からの6年間に、18歳以上で一般市民に目撃された心原性かつ心室細動・無脈性心室頻拍症例のうち19.6%が1ヶ月生存した。80歳未満、女性、家族以外の目撃者、早期のCPR開始・電気ショック・病院到着が予後に関連すると考えられた。